

## 第24回世界LPガス協会(WLPGA)フォーラム参加報告

日 程：平成23年9月25日(日)～29日(木)

場 所：カタール ドーハ

Sheraton Doha Resort & Conventional Hotel



目 的：経済産業省の補助事業である石油ガス国際交流事業・事後対話事業の一環として世界のLPガス情勢の情報収集と、国際セミナー2012の招聘活動を行う。

当センター参加者：岩田(調査研究部)



### 1. フォーラム参加者：

アジア・大洋州、欧州、米、中東、アフリカ諸国等から56カ国の参加があり、フォーラムへの参加者は約450名で、日本からは23名の参加があった。フォーラムに併設されたブース展示会場には78ブースが揃い日本からは伊藤工機、八千代工業、ヤンマー・エネルギー・システムの3社が出展した。

### 2. 総会(26日)：

理事会、産業諮問委員会に続いて総会を開催。臨時総会による定款変更を採択後、2010年総会の議事録承認に続いて、理事長、財務担当副理事長および専務理事から各報告がなされ、2011年予算の進捗状況・決算見込み並びに2012年予算を審議、承認された。

理事会(世界各国から9名で構成)は、今回3人の異動があり、新理事には山崎理事長を含め3氏が全会一致で承認された。また、次回総会を来年9月にインドネシアのバリで開催することを決定した。

### 3. フォーラム概要：

第1日 9月27日 フォーラム・セッション

#### 【コンフェランス開会】

- ・ カタール国エネルギー産業大臣 モハメド・ビン・サレー・アル・サダ  
カタールの輸出量：2010年800万トﾝ 2011年1000万トﾝ 2012年1200万トﾝ  
皇太子もLPガス支援している。プロジェクト遅れによる供給不安あり。
- ・ WLPGA 理事長 ラモン・デルイス・セラノ  
LPGは天然ガス由来65% ネットワークとヴァリューチェーンにより協力して環境改善を図る。

- ・ タスウィークCEO サード・アル・クワリ  
LNG輸出世界1でアジア太平洋州が75%占める。安定供給でアジアの需要を満たす。

#### 【基調演説】

アルカリジガス副社長 バート・カイヤー

IEA上席エコノミスト ジョン・コーベン 「ガス黄金時代」

福島の事故、環境意識向上、非在来ガス増産等によりガス黄金時代が到来する。

#### 【高レベル円卓会議——業界一体化】

座長： 英国データモニター社 バート・カイヤー

2005年→2030年にはLPG消費は3割アップする。

12月にはドーハで世界石油会議が開催される。

パネリスト

- ・ トータル探鉱生産カタル ステファン・ミッシェル  
福島の事故でガスの需要は増える。単にガスを使うだけではCO<sub>2</sub> は減らない。他のエネルギーと併用すべし。
- ・ タスウィーク アントン・ブレイ  
信頼を大切にし、契約で確実なビジネスをしていく。品質にも配慮する。
- ・ SHVエネルギー ロイック・ドゥリビーク  
価格安定を期待する。環境を強調すべし。堅実なビジネスのため契約を結ぶ。PERC のようなアイデアに資金を付けてくれる団体と協力している。
- ・ リーブラ・ファーンレイ ディーコン・ショー  
30年ブローカーをやっているが、今後も存在意義は存続する。
- ・ ファレルガス ジム・ファレル  
顧客を考慮しないバリューチェーンは崩れる。
- ・ エネルギー輸送グループ キンボール・チェン  
儲けながら環境保全に資する気持ちで働いている。

#### 【全体会議——2030年迄のLPガス世界的展望】

座長： スイス ジオガス専務 ジャック・ブデ

- ・ パービン&ガーツ ケン・オッター 「LPガスの需給の展望」  
シェールガスの増産がLPGの増産となり2030年3億トンに到達する。
- ・ トータルガス レンゾー・ビー 「エネルギー獲得スペクトルにおけるLPガスの位置」  
世銀や UNDP は貧困撲滅のため LPG 助成を主張するが、政策を間違えるとバイオマスに戻る危険がある。
- ・ SHVエネルギー ロイック・ドゥリビーク 「中国のLPガスの将来」  
中国は輸入に頼らない。  
1999年需1300万トン給800万トン 2009年需2300万トン給1900万トン

- ・ ナイジェリア国営石油 アデバヨ・イビログバ 「拡大するアフリカの機会—ナイジェリアの見直し」  
バイオマスからの転換を5年かけて進めている。
- ・ 欧州LPG協会 ラモン・デルイス・セラーノ 「欧州のLPガスの将来」  
オートガスの普及でCO<sub>2</sub>が減少する。
- ・ プロパン教育研究調査会(PERC) スティーヴ・ウェイン 「米国における技術的原動力」  
アメリカでもバイオマス依存者は多い。  
技術革新なくして需要の大幅な伸びはない。技術革新のアイデアに資金提供する。  
各種のアイデアから引き出されるSWOT分析には教えられる。

第2日 9月28日

【基調演説】

プルタミナ CEO カレン・アグスティアワン(ハッサンVP代読)

灯油→LPG 転換プロジェクト2012年まで継続、大統領が支持。

LPG 需要2007年末110万ト→2012年460万ト。

灯油補助は激減しインフラ整備で投資機会拡大。住民も満足している。

【高レベル円卓会議——供給・トレーディング・価格】

座長： 仏SHVエネルギー・供給・リスク管理部長 アーンスト・ブランドシュテター

SHV1億5千万ト家庭用を販売してきた。他のエネルギー対抗力を持つべし。

- ・ タスウィーク マーク・トゥロゴヴィッチ  
2011年1000万ト、2012年1100万トのLPGを輸出予定。  
LNGは7700万トの輸出である。CP支持を強調。
- ・ シェル ジョン・ヘッセ  
シェルは石油よりガスに重点を置く。  
供給、商流、ロジが鍵。供給過多を抑える価格政策。
- ・ トータル・オイル・トレーディングS.A. トーマス・コーサック  
石油に比べてLPG価格は安定。石化向けに力をつける。
- ・ エネオス・グローブ 佐藤雅一  
1962年クウェート玉輸入から始まり現在輸入1200万ト。CPをFOBとする。  
LNGは非関税でLPGと対等ではなく、人口減を始めオール電化、都市ガスに市場を奪われている。  
価格はここ3月AL比ではリーズナブル。
- ・ アーガス・メディア ジム・ニコルソン  
マーケットの構造を変える価格のアイデアが望まれる。

質疑応答でCPについてのやりとりがあった。

消費国は他に基準とする価格がないのでCP体制もやむをえないという態度だが、エネオス

グローブの佐藤副社長より、米国のシェールガス増産からLPGも大量に生産され中南米を始め各地に輸出されている。2014年にパナマ運河が拡張され大型船が通航できるようになると輸入者も興味を持つようになり、その時、CPは維持できるかとの指摘あり。

#### 【全体会議——中東のLPガスマーケット】

座長：デンマーク コーサン・クリスプラント CEO アンダース・アンダースン  
コーサン・クリスプラントは創立60周年を迎える。

- ・ ウォコッド マーク・ヒドラ 「LPガス消費国としてのカタール」  
3億2千万ドルの市場規模である。  
パイプラインで充填所まで供給し家庭用は透明容器を使用。
- ・ ガスコ ムハマド・アル・シャブナン 「サウジにおけるLPガス消費拡大」  
GASCOはLPG専門企業で84万本を充填する
- ・ ナトガス カルドン・ディブ 「レバノンのLPガスマーケット展望」  
規範は欧州に取る。56充填所あり。
- ・ 国営ガス ゴウタマ・セン 「オマーンのLPガス活躍の機会」  
中東では中位の消費。調理用として100%助成金が出る。  
フレアのLPG転換を検討している。
- ・ クウェート・オイル・タンカー サンジェイ・ジョシ/ムハマド・アル・サイド 「クウェートのLPガスマーケットの概観」  
50%が外人である。ソーラー、風力を充填電力としている。2030年にむけ7200本/時間を目指す。

#### 【第24回世界LPガス・フォーラム閉会・第25回歓迎】

WLPGA 理事長 ラモン・デルイス・セラーノ

プルタミナCEO カレン・アグスティアワン(ハッサンVP代読)

#### 【GTC——LPガス活用・製品技術・環境問題】

座長：日本LPガス協会輸入協議会代表幹事 荒畑誠

- ・ PERC スティーヴ・ウェイン 「雑草処理のプロパンバーナーの開発および能力比較」  
新需要としてトラクター一体型雑草処理バーナーを紹介。
- ・ 伊藤工機 ネイル・オームロッド 「拡大する国際的LPガスマーケティング機会」  
2つのボールエレメントがガス圧で落ちる閉栓システムを紹介。  
都市ガス配管への供給も説明。
- ・ IOC プティエダット・ジャヤデヴァン 「LPガス補助行政のための認証機能解決法」  
補助金の正当な対象者であることを認証するシステム紹介した。
- ・ IDテック アンドレアス・H. ジーラッシュ 「個別シリンダー管理がLPガス操業にもたらずもの」  
シリンダー1本ずつを判別するシステムを紹介した。

- ・ ヤンマー・エネルギー・システム ジェームズ・ポスル 「地震災害時のLPガス適用技術」  
マイクロ CHP とコジェネを電気との比較で長所を説明した。

#### 【GTC2——LPガス操業・販売・物流の技術革新】

座長：モロッコ サラムガス A. ベンベクハレド部長

- ・ G—リポニューション クリス・スミス 「LPガス軽油混合の将来」  
EURO6をクリアするソリューションとして LPG・ディーゼル混合燃料の開発。
- ・ アヤガス ジャン 「自動弁シールがLPガスシリンダー用充填機器を変える」  
欧州2位の充填所メーカー。毎時900シールを達成。
- ・ PERC スティーヴ・ウェイン 「プロパンチャレンジの立ち上げ—LPガス業界の先端的革新の新手引」  
ブレークスルーは繋ぐヒットから出る。アイデアに資金付け。
- ・ インテリジェント検知 セルジオ・パウロ 「LPガス配送における先進テレメトリーの物流向上の消費者ケースシナリオ」
- ・ 荏原インターナショナル デイヴィッド・キャメロン 「Joule-Thomson バルブ付け替えによる極低温圧縮膨張器Pガス充填向上」  
すべての液化に威力を発揮する。2月で効果が現れる。

第3日 9月29日

#### 【オートガス・サミット】

##### 【開会の辞・基調演説】

開会の辞：WLPGA GAIN代表 ジョエル・ペデサック

基調演説：豪エルガス ジョン・エヴァンス 「オートガス再活性化」

##### ——セッション1 世界の関与者による方向レビュー——

座長：英 アーガス・メディア編集長 ニック・ブラック

- ・ G—リポニューション クリス・スミス
- ・ 日本LPガス協会 荒畑誠  
タクシー専用としてしか開発しなかった。
- ・ 韓国LPガス協会 Y. H. コー  
オートガス停滞：価格 ガソリン：軽油：LPG=100：90：56とインセンティブが減少。  
LPG 車は貧乏人の車とのイメージをもたれている。  
燃費が悪く、パワーがないイメージを払拭する必要がある。
- ・ トルコ エネルギー市場管理局 セマレッティ・チューネー  
トレーニング充実でタンクチェック等安全性アップを2012年の目標とする。
- ・ 豪エルガス ジョン・エヴァンス  
GM の LPG 車2012年に開発、フォードは遅れている。

——セッション2 最新オートガス展開——

座長： インド オートガス連合事務局長 スヤシュ・グプタ

- ・ プリンス・オートガス バート・ヴァン・アーレ 「オートガス改造」  
顧客は、4000ドル(30万円)位は払っても良いと考えている。
- ・ D. J. バッチャン社 ジェームズ・バッチャン 「オートガスをより顧客志向に」  
豪州オートガス110万トﾝ スタンド数600SS
- ・ アイガス エルクメント・ポラト 「トルコのオートガス・マーケティング新取組み」  
50周年、トルコは世界2位オートガス大国。  
LPG車は18% 貧乏人の車のイメージを払拭しなければならない。
- ・ 英メネコン・コンサルティング トレヴァー・モーガン 「新オートガス刺激政策」  
陸上交通の中でオートガスは1. 2%。上位6国で60%シェア。国情により有利不利がまちまちである。

4. 日本に対する評価:

WLPGAドーハ・フォーラムの開催にあたっては、佐藤前理事長の高レベル円卓会議へのパネリスト参加や荒畑氏のGTCの座長とオートガス講演と積極的な役割を、日本が果たしたことに、WLPGAから高い評価を得ています。

また伊藤工機の5回連続ブース出展、ヤンマー・エネルギー・システムと八千代工業の初出展は日本の技術力を改めて世界に示す良い機会となりました。

以上 (調査研究部 岩田総括主任研究員)